

# 悠然と構造に向かう 構造家・尾崎友彦のスタイル

朝倉幸子◎TH-1  
illustration:Taco

## ■静岡人として

笑顔が印象的で、穏やかで信頼される人柄が溢れている。OZAn/尾崎設計室一級建築士事務所を主宰する構造家の尾崎友彦さんは静岡出身。社名に「構造」と入っていないのは、建築設計事務所を営んでた父親の影響かもしれない。「優秀な同級生がいっぱいいたので自分はダメだなと…」。日本大学建築学科に入学したときに、意匠設計向きではないと自己判断したと聞いて覇志堂が、「専攻するのが歴史でも材料でもなくて、どうして構造だったの?」。返事は「教授が厳しく見えたのです」。そう言いながらも、一番難しそうなる構造を選んでいるのは、1990年から始まった掛川城の復元工事を見ていたので構造に興味があったのかもしれないと分析する。「僕は与条件がたくさんあった方が得意なのです」と煙に巻くが、尾崎さんの言葉には隠れた構造への想いがあるようです。

斎藤研究室に入れたのは、3年生のときに面倒を見てくれた先輩方や仲間のお陰でラッキーだったという。難関の研究室に面接を経て入ったのだから、幸運ばかりではないのに控えめで人から好かれる尾崎さんらしい。膜構造を研究しながら、斎藤公男先生の設計思想はしっかり学んで今に生かしている。

## ■KKSとSDG

構造家の長谷川一美さん(本コラム82回目に登場)が営む構造設計事務所KKSに入所した尾崎さんは9年を過ごす。長谷川さんを前橋工科大学大学院教授に推薦したのが斎藤公男先生なのだから、構造ネットワークの良縁の中心には常に



斎藤先生がいるのです。

所長の長谷川さんから学んだのは、構造に対する「勘所」。設計図を一見して、断面などの数値を出す。意匠設計者にとっては計画の段階で数値がつかめる、それが解析した結果とほぼ合致しているという。だから建築家から信頼される構造家の一人なのです。尾崎さんがそれを踏襲して仕事をしているのは間違いない。

渡辺邦夫さんが率いるSDGに14年間在籍した長谷川さんは、独立してからもSDGと組んで仕事をしてきた。このつながりが尾崎さんに幸運をもたらしてくれた。世界都市博「世界都市館」では、孫弟子として設計に参画できたのだ。大構造家を前に重圧もあったけれど構造に対する渡辺先生の強烈な姿勢を学んだ尾崎さんなのだった。

## ■PCへの思い

アトリエ設計事務所のワークステーション、1994年に新建築に掲載された「杉並たかいどいちご保育園」は藤木隆男建築研究所、他に星設計室、渡辺治建築都市設計事務所、アトリエソルトなどが設計する住宅、保育園、施設など幅広い設計をしている。最近TOTO通信で紹介された岸本耕さんとも個人的な仕事を協働している。

渡辺邦夫監修の「知らぜらる PC建築 Perfect Collection」(2004年)は、尾崎さんも書いている。PCを使った建物の設計をするのが、これからの目標なのだという。他の構造にはない連続性の綺麗さと構造の組立が最初にできることが魅力という。まだ実績はないが、尾崎さんはPCへの思いを実現させるためにも、構造に正しく向き合い着々と仕事をしているのです。

スリムな体型は静岡のサイクルロードチームや鈴鹿のサーキットで培ったもの。「20歳のときに着ていたスーツを今でも着られます。」今年中止になってしまった東京マラソンの出場権も取得していたというかなりのスポーツマン。来年は東京を元気に走る尾崎友彦さんを応援できるはずなのです。

